



ベーター そのいくつかの側面

ルプレヒト トールベッケ
ベーターてんかんセンター
ビーレフェルト市、ドイツ

Shizuoka, Japan October 10th, 2016

www.mara.de



ベーター

1867年に設立され、もうすぐ150周年を迎える歴史ある施設であると同時に、ソーシャルケアにおける最新の施設でもあります。



ベーターは、多くの人にとって病気のある人、障害のある人、社会的な困難を抱える人たちとともに行うコミュニティーづくりのモデルとなっています。



ベーターについて話しをして欲しいとお話があったとき考えたのは、ドイツから遠く離れた日本で、障害のある人たちのケアに独自の伝統がある日本で、なぜベーターに関心が持たれるのか、ということでした。

ひとつには、ベーターが来年には150周年を迎える、歴史のある施設であること。

そして、ベーターが、病気や障害のある人たち、社会的に恵まれない人たちとともにコミュニティを造る際のモデルとなってきたことも大きいかもしれません。

このことは日本でもよく知られています。

1993年10月には日本の天皇后両陛下がペーテルを訪問されました。



1993年10月
天皇、皇后両陛下が
ペーテルをご訪問



2006年には、日本で絵画展「ペーテルより愛を込めて」が開催され、皇后陛下がお越しになりました。

ボーデルシュヴィング祭 2009/2010にちなんで東京で開催されたペーテル写真展にも、皇后陛下がお越しくださっています。

2016年には、日本から精神科の代表団が職業訓練の共生的アプローチの視察のために訪問しました。

2017年には、日本でペーテル展開催が予定されています。



2003年
ペーテルの
リンデンホーフに
日本庭園が完成



絵画展[ペーテルより
愛をこめて]
オープニングに
皇后陛下が出席された

トピック

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設 ベートルの概要

ベートルの歴史：150年の展開

- 今日のベートル
- サービスの範囲
 - 目標と哲学
 - 活動の例

5

ベートルは、多彩な分野と活動を持つ大きな施設です。長年そこで働いていても、その全てを知りつくすことは不可能です。

私はベートルで働いて26年になります。1990年から2007年は、てんかん病院マーラのリハビリテーション部長として、2007年から2013年はマーラの外来ソーシャルワークカウンセリングのボランティアスタッフとして、そして2013年から現在までベートルてんかんセンターのてんかん研究協会でボランティアとして働いてきました。

したがって私の視点から見たベートルの一部をお話することしかできません。ベートルの他の地位で働いている人や他の部門で働いている人は、私がこれからお見せするのは、また違った様子をお伝えするかもしれません。

まず、「フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設ベートル」の概要についてお話することから始めたいと思います。

歴史を押さえておくことで、現在・今日のベートルがより理解しやすくなると思われますので、ベートルの歴史を辿っていくつかをまずお話します。

その後で現在のベートルに話を戻し、個別の活動、今日のベートルの目的と哲学、そして私自身の仕事の領域であるてんかんを元に、今日のベートルの活動の例についてお話していこうと思います。

トピック

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設 ベートルの概要

ベートルの歴史：150年の展開

- 今日のベートル
- サービスの範囲
 - 目標と哲学
 - 活動の例

6

ではまず、「フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設ベートル」とはどういうところか、その概要からお話しましょう。

- ・ 一般病院および精神病院
- ・ てんかんのある人、障害のある人、脳損傷のある人、ホームレスの人、社会的困難を持つ青年および高齢者への援助
- ・ 仕事と職業リハビリテーション
- ・ 学校、職業訓練、大学教育

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設ペーテルは、非営利の宗教的な慈善組織である。私法に基づく教会団体であり、ヴェストファーレンのプロテスタント教会に属している。



「フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設ペーテル」は、非営利の宗教に基づく慈善組織です。私法に基づく教会団体であり、ヴェストファーレンのプロテスタント教会に属しています。

ペーテルは、いくつかの一般病院、精神病院を運営しています。

また、てんかんのある人、障害のある人、ホームレスの人たち、脳損傷のある人、社会的な困難を抱える若者や高齢者の人たちへの援助の提供を行っています。

さらに、重度の障害のある人たちに対する就労機会、職業リハビリテーションの提供を行っています。

一般の学校、特別支援学校、また看護師や作業療法士といったヘルスケアの専門職の養成校などの、さまざまな学校を運営しています。

ペーテルの傘下には、さらに上級の学校もあり、大学レベルのヘルスケア専門職の再教育校もあります。

これらの活動は以前のようにペーテルだけに集中しているのではなく、ビーレフェルト市、さらにはドイツの北部、北西部ーベルリン、ブレーメン、ハノーバー、ドルトムント、デュセルドルフといった地域にも展開しています。

現在ではドイツ全国280ヶ所でサービスが提供されています。



てんかん



ホスピスホーム



病院



障がいのある人に付き添う



仕事と職業リハビリテーション



学校・トレーニングセンター



ホームレスの人の援助



企業



生涯教育

ペーテルの活動領域の例をいくつか見ていただきましょう。

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設ベーター

年間230,000以上の人の
治療・ケア・
カウンセリング・教育

17,997人を雇用
パートタイム 5,000人

財政規模 2014年
11 億 ユーロ
(1,250億円)

寄付金 2015年
49,60万 ユーロ
(56億円)

	病床/ 定数
病院	1,236
てんかん	957
障がいのある人の援助	2,293
精神科	2,008
ホームレスの人の援助	390
若い人の援助	905
高齢者の援助	2,800
獲得性脳損傷のある人	99
仕事と職業リハビリテーション	3,401
学校とトレーニング	7,160
ホスピス	56
その他	110
合計	21,545

イメージをもう少し具体的に数字で示しますと：

ベーターでは年間23万人以上の人に、治療やケアや教育が提供されています。

17,500人以上を雇用していて、その3分の1はパートタイム雇用です。年間の財政規模は、11億ユーロで、日本円に直すと1,250億円ほどになります。

収入の内訳で最も多いのは、州の健康保険、介護保険、失業保険の報酬で、年金保険や州の保健福祉局からのものが続きます。4,960ユーロ（日本円にして50億円以上）の寄付が寄せられますが、これは運営費のおよそ4.5%に当たり、独自の事業に使うことができます。

トピック

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設
ベーターの概要

ベーターの歴史：150年の展開

-どのように出発したか (1867 - 1910)

-第1次世界大戦、ナチ時代のベーター

-第2次世界大戦後のベーター (1914 - 1968)

今日のベーター

-サービスの範囲

-目標と哲学

-活動の例

ベーターの活動を理解していただくためには、少しその歴史と発展過程を知っていただくのが一番でしょう。これから少し、ベーターの歴史を紐解いていきたいと思います。

産業革命 19世紀

てんかんのある人たちは発展する工業社会の要請に合致しなかった

- 毎日決められた時間に雇用側の期待どおりに働きに来ない
- 工場生産現場での事故リスクが高い
- 労働者階級の人たちの子どもがてんかんになった場合、そのケアをすることができない

J. Pasternak Soc. Sci Med 1981



ベートルは1867年、19世紀後半に起こったドイツでの産業革命に対する教会の反応（reaction）として始まりました。

てんかんのある人たちは、この新しい社会に馴染むことができませんでした。それは、

- 毎日、決められた時間に、雇用者側の期待通りに働きに来ない
- 工場生産現場での事故リスクが高い
- 労働者階級の人たちの子どもがてんかんになったら、そのケアをすることができない

といった理由からです。

そこで、ヴェストファーレン州のプロテスタント教会が、ビーレフェルトに、てんかんのある人たちのための施設ベートルを作りました。それがその後のドイツにおける施設のモデルとなったのです。

ちなみに、ベートルという名前は聖書から取られていて、それは「神の家」という意味です。

ベートルの設立 1867年



Eben-Ezer（エベネツァーの家）
“援助の礎石”



1867年、ベートルの事業が、てんかんのある3名の若者たちとともに開始されたのが、ビーレフェルト近くのトイトブルクの森にある、この古い農家の建物です。

てんかんのある人は、その病気の過程のできるだけ早いうちから専門的なケアを受けることで予後が改善される、という考えに基づくものでした。

早期からの専門的なケアとは、学校教育、就労の体験、医学的治療、こころのケア、例えば作業所サービスへの参加 でした。

エベネツァーの家で事業が始まったときから、これはまず最初のステップであり、対象はより多くの人や女性にも広がっていくことが考えられていました。その後、さらに多くの建物の建設が計画されています。

ちょうど、ボーデルシュヴィングが、ベートルにやってきたときのことです。



フリードリヒ フォン ボーデルシュヴィング
1831 - 1910

ベートルのディアコン施設長1872 - 1910

- ・ ヴェストファーレンの貴族の家に生まれる
- ・ ヴェストファーレンのプロテスタント教会の牧師に
- ・ 工業発展の波に取り残された人々の置かれた状況に心を動かされる
- ・ 保守的、パターナリズム（保護者的温情主義）、道徳主義的観点から産業革命を批判
- ・ 新約聖書に従い実践的な援助を行うことを決意
- ・ 発展する工業社会に即した近代的な組織を作った、卓越した心優しい人

てんかんのある人に関連したベートルの発展

- ・ 1871 - 1884 居住ケアの建物21棟を建設
- ・ 1872 女性ディアコンのための「聖母の家サレプタ」
- ・ 1874 てんかんのある人に職を与えるために最初の作業所（木工）を設立
- ・ 1881 男性ディアコンのための「ナザレの家」
- ・ 1881 臭化カリウムをベートル以外の人にも提供
- ・ 1886 てんかん病理研究所を設立
- ・ 1894, 1896 病院を設立
- ・ 1882 活動をてんかん以外に、失業者、ホームレス、精神疾患のある人、社会的な困難を抱えた若年成人にも拡大を開始

ボーデルシュヴィングによるてんかんのある人に関連する事業発展のステップを見てみましょう。1871年から1884年の間に、てんかんのある人の居住ケアのため、21棟の家を建設しました。

教会内のさまざまな奉仕の仕事を行うために一定期間の専門教育を受けた人を「deacon」と言いますが、1872年には、女性のdeaconのための「聖母の家セレプタ」を設立します。彼女たちは当時から非常に専門的なケアを行っていました。

1874年、てんかんのある人たちに仕事を提供するための木工の作業所が作られました。

その後さまざまな作業所がこれに続き、今も存在しています。

1881年、男性のdeaconのための「ナザレの家」が設立されました。

同じく1881年には、ベートルで行われるような専門的なケアを必要とするほどには重症ではない、人たちのために、ベートルの薬局が、当時唯一の抗てんかん薬であった臭化カリウムを届けることを始めました。

1886年 てんかん病理研究所を設立します。

1894年, 1896年 最初の病院を設立しました

1882年からは活動を、てんかん以外の、仕事も家もないホームレスの人、精神疾患のある人、社会的な困難を抱えた若い成人にも拡大しています。

ベートル ～1910年



3,000人以上の人が住む、多くはてんかんのある人

15

これは、1910年頃のベートルを描いた絵です。3,000人の人たちが住むまちに発展し、住民の多くはてんかんのある人でした。

包括ケア～必要としている人のために

- 居住ケア
- 家庭のような建物に住む



- 教育
- 雇用
- 質の高いヘルスケアと医療
- こころのケア



16

初期の頃の重要な考え方として、てんかんのある人が住むところは家庭のようなべきだということがありました。寮父、寮母がいて、10人くらいのグループで一緒に暮らすというものです。

この写真は、居住ケアのための最初の建物です。家族のようなグループに分かれて、100名ほどの人たちが暮らしていました。

前にも触れましたが、ケアは常に包括ケアを基本としていて、教育、雇用、質の高いヘルスケアと医療、こころのケアが、牧師や牧師を補佐するdeaconによってなされていました（写真）。

当時のてんかん医療には限界があり、てんかんのある人に対する援助は、教育的、あるいは宗教的な指導であったり、仕事の機会の提供といったことが中心でした。

トピック

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設
ベートルの概要

ベートルの歴史：150年の展開

- 出発と150年の展開（1867 - 1910）
- 第1次世界大戦、ナチ時代のベートル
- 第2次世界大戦後のベートル（1914 - 1968）

今日のベートル

- サービスの範囲
- 目標と哲学
- 活動の例

17

フリードリッヒ フォン ボーデルシュヴィングは、1910年に亡くなる前に、それまでの何年か既に彼の補佐をしていた息子にベートルを継いで欲しいと願っていました。

彼の息子のフリッツ フォン ボーデルシュヴィングは、1919年から1946年までベートルの施設長を務めました。

彼は第1次世界大戦の時期にベートルの舵取りをしていましたが、そこに住む人たちのための十分な食糧を手に入れることが、どんどん難しくなっていました。

さらにその後、ベートルに暮らす障害のある人たちを、ナチの政府による殺害から守ることが、彼にとっての最大の課題となっていました。1940年、ヒトラーはT4作戦と呼ばれる行動を開始しました。その目的は、体制が生きるに値しないと判断した人たちの生命を秘密裏に奪うことです。ベートルの施設内に暮らす人たちのほとんどが、影響を受けました。フリッツ フォン ボーデルシュヴィングは、他の牧師たち、医師たちとともに、巧みに「引きのばしと抵抗」という方法を駆使して、ほとんどすべてのベートルに住む人たちの生命を助けることに成功しました。しかし残念なことに、6名のユダヤ人はナチによって収容所に送られ殺されてしまいます。

第2次世界大戦が終わると、ベートルはナチの恐怖時代以前とほぼ変わらない状態に戻りました。しかしその後、社会構造、障害のある人たちのリハビリテーションに対する概念は、非常に早いスピードで変化していきます。このことは、ベートルにとって、改革の必要性を意味しました。1970年頃から、新しい状況に適合するための改革のプロセスがスタートし、現在まで続いています。

トピック

フォン・ボーデルシュヴィング総合医療福祉施設
ベートルの概要

ベートルの歴史：150年の展開

- 出発と150年の展開（1867 - 1910）
- 第1次世界大戦、ナチ時代のベートル
- 第2次世界大戦後のベートル（1914 - 1968）

今日のベートル

- 目標と哲学
- サービスの範囲
- 活動の例

18

では、これからは今日のベートルのお話に戻り、いくつかの具体的な活動と、目標と哲学、現在のベートルでの活動の例についてお話していきたいと思います。私自身のフィールドの活動、すなわちてんかん学から得られたものです。

今日のベーテル ～ 目標と哲学

- 保護者的なケア → 障がいのある人が
自らの生活を自己決定するための援助
- 居住ケア → コミュニティのなかで
自立した生活をするための援助
- 重大な社会政策決定に関する意見表明
- 専門援助者への専門教育と生涯教育提供の拡大
→ 2006年にディアコン応用科学大学を設立

保護者的なケアは、障がいのある人たちが自らの生活を自己決定するための援助へと変わり、居住ケアは、訪問援助によるコミュニティのなかでの自立した生活へと変わっていきました。医療サービスでは、最高標準の治療を提供するために大学との連携が行われています。

ベーテルは重大な社会政策に対して声を上げることを遠慮せず、例えば、2009年にドイツ議会によって承認された国連障害者権利条約に対する声明など、重大な社会政策決定に関する意見表明を行なっています。

ヘルスケア、障害者ケア分野の専門援助者に対する専門教育や生涯教育を、拡大してきました。例えば、2006年にディアコン応用科学大学を設立しています。



これは、現在のベーテルの写真です。

聖母の家の建物は、今は看護学校になっています。ナザレは、男性に限定せずディアコンが教育を受ける学校になっています。ここに見える大ベーテルには、ディアコンの学校があります。

ここには大きな障害者のための作業所があります。ここに見える家のいくつかは、今も居住ケアに使われていますが、その数は 地域でのケアが増えていくとともに急激に減ってきました。障害のある人もない人もいろいろに余暇を楽しんでいます。この写真はそのスケッチのひとつです。

最近ベーテルでは、脳損傷の人たちを援助するための新しいシステムを発展させています。出来限り自立した生活を送ることができるように、ひとりひとりに合った援助が提供される施設が、いくつかの都市に設けられています。

今日のベートルの活動～てんかん



ここでは、てんかんの分野でのいくつかの活動を紹介します。

この写真は、てんかんのある若い人たちのための職業訓練センターで、この種のセンターはヨーロッパでは唯一で、定員126名で職業訓練を提供しています。

これは、ドイツで最初にてんかん患者のためのリハビリテーションクリニックです。1997年にベートルで職業的、社会的に困難のある人々への援助を提供するために、スペクト医師と私がスタートさせました。現在、さらに新しい建物が建てられています。

この写真は、てんかん研究部門でのメイ教授と私です。ここではてんかんと知的障害のある人たちのQOLに関する研究プロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトの予算は、ベートルに対する個人寄付によるものです。

まとめ

- 現在のベートルは、障害や社会的な困難を抱える人々に対して非常に多様なサービスを提供する大きな福祉団体である。障害のある人々へのアプローチは、当初のものとは大きく変化してきている。つまり、保護的なケアから、健康な人も病気のある人も障害のある人も含んだ「コミュニティづくり」というコンセプトへと、根本的に変わってきた。
- しかしベートルの仕事には一本の強い一貫した流れが存在している。
 - 援助のモチベーションは他者を助けるという聖書の教えによるものである。もちろん他の宗教との交流はある。
 - フリードリヒ フォン ボーデルシュヴィング1世の時代から一貫して、実践的援助を提供することに焦点が当てられている。
 - 今日のベートルは、例えばてんかんのある人のリハビリテーションといった様々なケアのモデルを発展させたいと考えており、その結果、研究、生涯教育、大学教育の強化が図られている。
 - フリードリヒ フォン ボーデルシュヴィングがそうであったように、新たな問題が発生した時には、ベートルは新たな解決策を探す準備ができています。ベートルはつねに革新的である
 - ベートルは社会政策の議論に対して遠慮はしない。その実践的経験を反映した提言を発信していく。